

花 無 心

第 296 号ダイジェスト版 2025 年 10 月 発行

ひきこもり家族自助会とやま大地の会(設立 2001 年 3 月)

振込先 北陸労働金庫 富山南支店 普通 3414428 とやま大地の会

♪ 例会のおしらせ ♪



例会は、ミニ講演やグループでの分かち合いの場です。また個別相談会(希望者)も行っています。能登半島地震の影響もあり、県教育文化会館を会場として使わせていただいています。今後変更がある場合がありますので、

参加を希望される方は、本会のホームページでの確認をお願いします。

11 月 15 日(第 3 土曜日) 第 297 回例会 13:30
富山市舟橋北町 7-1 富山県教育文化会館 503 号室
12 月 20 日(第 3 土曜日) 第 298 回例会 13:30 富山県教育文化会館 502 号室
01 月 17 日(第 3 土曜日) 第 299 回例会 13:30 富山県教育文化会館 502 号室
02 月 15 日(第 3 土曜日) 第 300 回例会 13:30 富山県教育文化会館 未定

会費 正会員の 2021 年度からの年会費は 2,000 円。例会参加費無料。(振込料は各自負担です。)

非会員の方の、2021 年度からの例会参加費 200 円です。

駐車場について … 会館近く北東側に会館の駐車場があります。

◎富山県ひきこもり地域支援センター、最寄りの厚生センター、保健所、福祉総合相談センター等で相談をしましょう。適切な支援に繋がるよう力を借ります。

◎支援センターに希望すること、親に出来ることを常時募集しています。

◎ご相談があれば、大地の会のホームページからお問い合わせ下さい。

「とやま大地の会」のホームページですが、下記 URL で開設しています。ご覧ください。

<http://toyamadaichinokai.com/>



本会の各事業は、富山県、赤い羽根共同募金の助成を受けて実施しています。

♪ 10 月例会報告

日 時: 10 月 18(土) 13:00~16:00 富山県教育文化会館

参加者: 45 名 {家族、体験者、関係機関}

H さんのハーモニカ演奏にあわせ、『里の秋』『ふるさと』を皆でなつかしく歌いました。

I あいさつ

本日は、富山県より「令和 7 年度 富山県ひきこもり民間団体取組強化事業」による助成を受け、「とやま大地の会・高岡つくしの会」合同例会として、池上正樹さんを講師としてお招きし、講演と対話交流の場を持つこと、本当に嬉しい思いです。

II 講演

演題は 『ひきこもりの現状 ～家族の気づき、本人に届く言葉～』

講師: ジャーナリストで(一社)SHIP 代表理事の 池上正樹さん

お話の概要

- ・「支援」や「就労」の言葉自体、当事者には、必然性がない。
- ・本人の安心のスペースに、支援者が侵入して来る ⇒ 自分が家から追い出される。
- ・自律とは、生きていたいと思える気持ちになること。
- ・厚生労働省は、自治体に対して、当事者や家族からの相談を断る事のないようにと通達している。
目指す姿: 自分の中から沸き起こって来る動機があって、こういう風に生きていきたいと思えて、自分から受け取りに行ける支援。
- ・社会は、“押し付けない 個々の意思表示を尊重 対話力 特性に合わせた環境づくり 仕事づくり”
他人とはコミュニケーション出来ないが、家族となら話が出来る。または、家族とも話が出来ない人が多い。

- ・良かれと思った先回りは、本人を傷つけ、生きる力を奪う場合がある。
- ・両親が「将来が心配」と相談員に → 相談員が14年間関係を持続され、7年後両親が相次いで亡くなった後、本人とやり取りし、生活保護申請の同行もされた例があります。

- ・周囲の声のかけ方や大事な視点、心構え

本人を把握した時は、他の家族へと同じように声をかけて欲しい、そして挨拶を続けて欲しい。

→ 本人は、“放っておかれていない”という安心感や肯定感を抱くでしょう。

「趣味」や「好きなもの」の話だけでいい、そこに一緒に出かけるともっと良い。

「力を貸してくれませんか？」と、本人に相談に乗ってもら

⇒ 病名やレッテルではなく、一人の知人として。

- ・好きな場所へなら出かけられる当事者の例

両親は、本人が苦しい本人の心を100%受け止めようと心がけ始めた

⇒ 少しずつ心が通うようになり、母子で一緒に都内をめぐるバスと電車の旅。

「昨日は朝日新聞の記事、今日は『SHIP!』を持って行って読んでいます。今朝も息子が降りてきて、「この人になら何か話せるかなあ」とポツリ。

- ・こもっていても、どんな失敗をしても、母は必ずこう言った。

⇒ 「私の子だから大丈夫」無条件の信頼が生きる糧だった。

“立場を越えて、みんなが当事者。ひきこもりの人達が生きやすい社会は、皆が生きやすい社会”

質問・感想・池上さんとの対話（一部）

- ・大地の会の会員が、父母から相談を受けた時、父親と母親に思いの違いが多い。どう対応するか？

→ 調整しなくても良い。父母の思いが一緒になければならぬという必要はない。

- ・ひきこもりの子どもの事を、他人に言えない。言うとな子の将来への悪影響が心配なので。

→ 話しても悪影響はない。本人が何も言っていないようであれば、隠す必要はない。隠せばストレスになります。

- ・ひきこもり基本法は出来ないのでしょうか？

→ 国の方での検討会は、今年是一回開かれたのですが、現在もその話は生きています。

- ・外へ出てもし始める所がない。見つからない。どうしたら良いのでしょうか？

→ それぞれ受け入れ箇所の思いが違うので、自分で作るしかありません。いろんな所に顔を出し、SNSで自分に近い人を見つけて情報発信を。また無理に合わせる必要はないですよ。

***講演と対話交流の記録を本会で要約してみました。講師の監修を受けていませんので、講演記録に正確さに欠ける場合があることをご理解ください。**

III その他

- 1 例会では、十分に自分の話が出来ない。言い足りないことや日常のあゆみなど体験発表をしてみませんか？約20分間程度を予定しています。

- 2 投稿欄について

会員の皆様から、“ひきこもりの理解”に関する本の紹介や講演の感想等、募集しています。



富山県ひきこもり地域支援センター からのお知らせ

相談時間：月曜日～金曜日 8:30～12:00、13:00～17:00（要予約）

グループ相談を実施しています。

・本人グループ 毎週火曜日 10:00～12:00

・親グループ 毎月第2木曜日 14:00～16:00

まずはお電話でご相談ください。電話：076-428-0616

場所：富山県心の健康センター内 〒939-8222 富山市蜷川 459-1

IV 高岡つくしの会より（2003年設立）

月例会 11月9日（土）、12月14日（土）13:30より 博労公民館

おとぎの森例会 11月22日（土）、12月10日（水）2:00～4:00 おとぎの森 こどもの家

V 書籍・論文の紹介

「登校拒否・ひきこもることが問題視されない社会をどうつくるか」前島康男（子ども・若者研究者）2025.6